

修学旅行生、海星高校を訪問

すっかり仲良しに

徒たちとともに楽しいひとときを過ごし、互いに理解を深めてほしい」と英語であいさつ。台湾人の生徒を迎え入れた。

セレモニー後は、海星学院の生徒が学年ごとに考えた企画を披露。2年生は相撲を紹介した。動画を上映しながらルールを説明した後、各グループに分かれて紙相撲を製作し対戦。ジェスチャーや英語を使って何とか意思疎通を図りながら試合を進めた。最後は記念撮影するなど打ち解けた様子だった。

台湾・高雄市の義大国際高級中学の高校生1、2年生21人が23日、室蘭・海星学院高校(堺俊光校長、2007人)を訪れ、日本の文化や学校生活の一端に触れていた。

日本の修学旅行に当たる訪日教育旅行の一環。渡航先にある学校への訪問が義務付けられているという。台湾人の生徒らは泊6日の日程で札幌や旭川、洞爺湖温泉などを巡る。

歓迎セレモニーで堺校長は「海星学院の生

陳宣翰さん(2年)は「もともと相撲は知っていたが、詳しく勉強すると面白い。家族にも伝えたい」と自分の国には存在しない競技に魅了されていた。

海星学院高校の山田ももかさん(2年)は「言葉はあまり通じないが日本のスポーツを通して仲を深めることができた。今度は食べ物や文化、習慣の違いを教えたい」と異文化交流に意欲を示していた。(池田勇人)

日台交流 笑顔いっぱい

紙相撲を楽しむ義大国際高級中学の生徒 (右から2番目)

